

# 令和4年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川小学校

## はじめにお読みください。

＜調査の結果をご覧になる方へ＞

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

## ＜全国学力・学習状況調査の概要＞

※「令和4年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

### 1. 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査対象

小学校第6学年、原則として全児童

### 3. 調査実施日

令和4年4月19日(火)

#### 4 調査の内容

(国語、算数、理科) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校調査は、国語、算数、理科とする。</li> <li>・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等</li> <li>② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容</li> </ul> </li> <li>・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。</li> </ul>	
	【小学校 国語・算数・理科 各45分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など
【20分程度】		

### 本校の調査結果の概況

#### 小学校

<教科に関する調査>

は全国平均正答率を上回ったもの



国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	5	68.7	70.4	69.0
我が国の言語文化に関する事項	1	92.2	80.7	77.9
話すこと・聞くこと	2	69.4	68.1	66.2
書くこと	2	52.9	49.7	48.5
読むこと	4	67.7	68.2	66.6

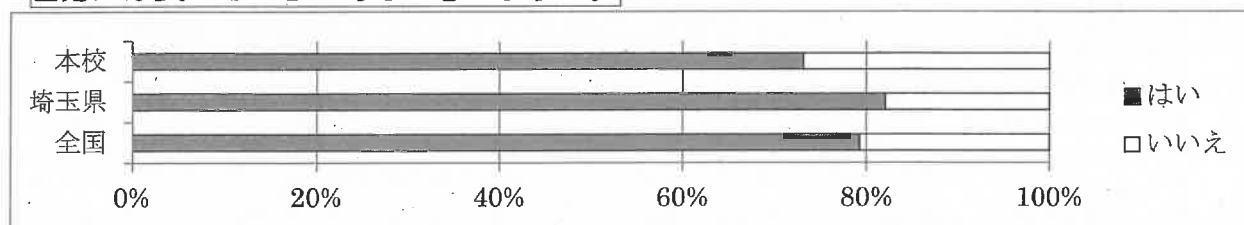
算数				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	6	67.5	69.9	69.8
図形	4	67.2	64.5	64.0
変化と関係	4	50.5	51.8	51.3
データの活用	3	69.9	69.2	68.7

理科				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
「エネルギー」を柱とする領域	4	55.3	52.5	51.6
「粒子」を柱とする領域	5	62.3	61.6	60.4
「生命」を柱とする領域	5	76.7	76.7	75.0
「地球」を柱とする領域	5	64.3	65.3	64.6

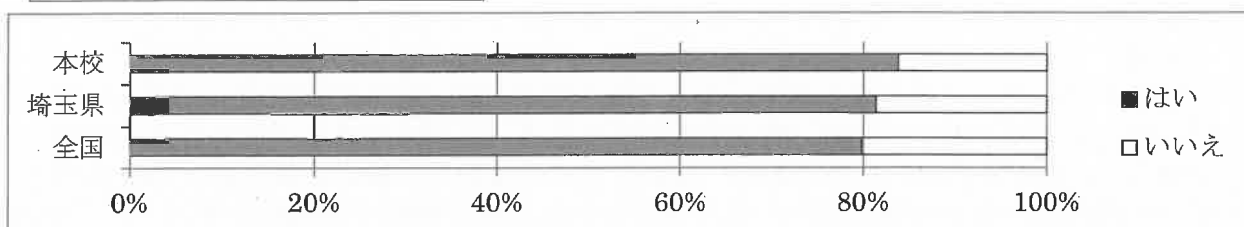
＜児童への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う  
 いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

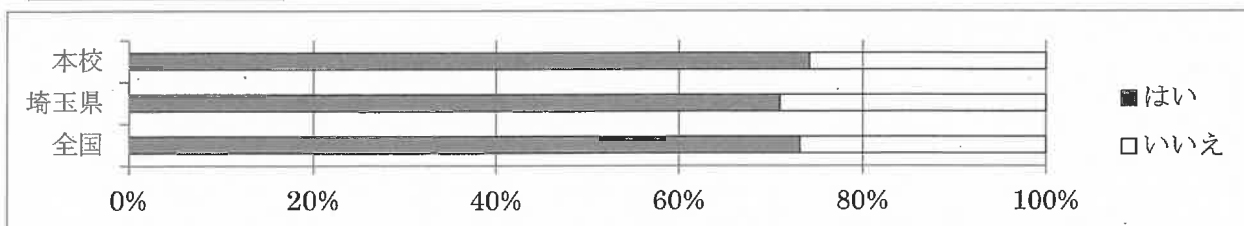
自分には良いところがあると思いますか。



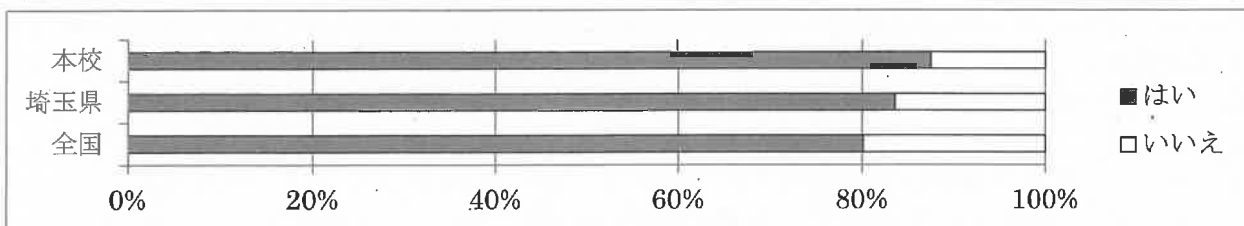
将来の夢や目標を持っていますか。



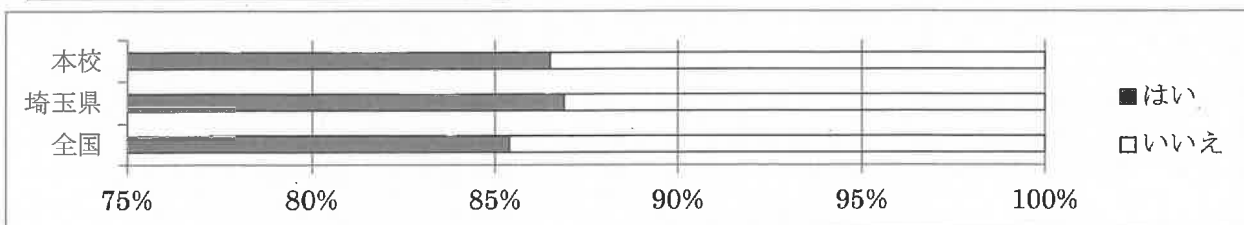
読書は好きですか。



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。



学校に行くのは楽しいと思いますか。



## 本校の調査結果の分析・考察

### <国 語>

「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関して全国平均を上回りました。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関して県平均及び全国平均をわずかに下回りました。

#### ○正答率の高かった設問

##### 【問題3の四】

島谷さんは、「六年生としてがんばりたいこと」を手紙で伝えたいと思い、(一)を書きました。そして、相手の読みやすさを考えて(二)のように書き直しました。島谷さんが書き直すときに気をつけた内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 とめやはねの書き方
- 2 文字の大きさ
- 3 文字と文字の間
- 4 行の中心

##### 【正答】

4と解答しているもの

(正答率：全国 77.9% 埼玉県 80.7% 本校 92.2%)

##### 【分析】

読みやすい文や文章を書くためには、点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くことや、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことなどが大切です。本校児童は、島谷さんが、手紙を書き直す際に、相手の読みやすさを考えて、行の中心に文字の中心をそろえて書いていることを理解できています。

#### ●正答率の低かった設問

##### 【問題3の三】

(ア) 次の\_\_\_\_\_部を漢字でていねいに書きましょう。

南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を知ってほしいという思いをもち、正しく使うことができている学級の様子をろくがして、各学級にしょうかいしたそうです。

(イ) 次の\_\_\_\_\_部を漢字でていねいに書きましょう。

そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を 提案できなかつたことをはんせいしました。

##### 【正答】

(ア)「録画」と解答しているもの

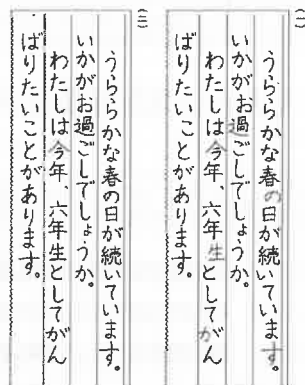
(正答率：全国 65.2% 埼玉県 68.5% 本校 63.1%)

(イ)「反省」と解答しているもの

(正答率：全国 58.7% 埼玉県 57.9% 本校 54.4%)

##### 【分析と改善策】

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかが大切です。第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができるよう意識し、授業改善を行っていきます。



## <算 数>

「図形」「データの活用」に関して県平均及び全国平均を上回りました。しかし、「数と計算」「変化と関係」で県平均及び全国平均を下回りました。

### ○正答率の高かった設問

#### 【問題4の(4)】

コンピュータは、いろいろな命令を順序よく組み合わせて動かすことができます。この命令の組み合わせを「プログラム」といいます。

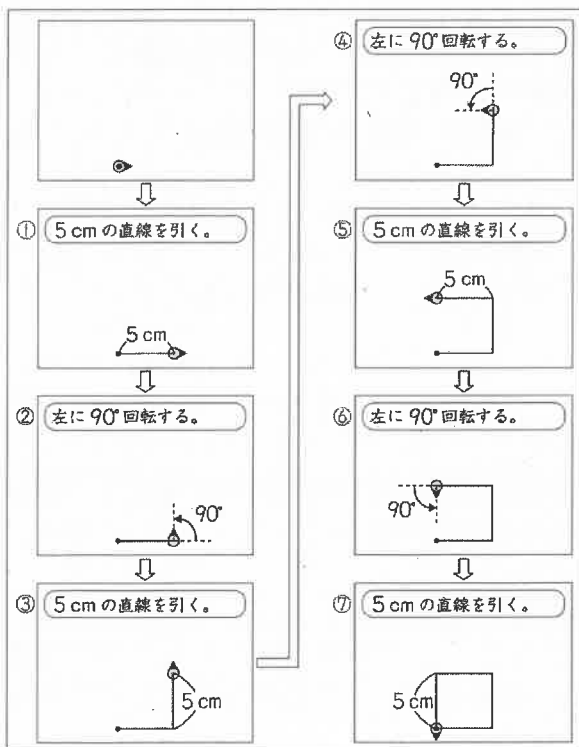
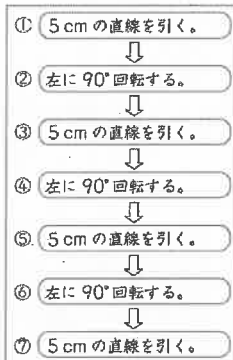
はなこさんは、プログラムをつくり、いろいろな図形をかこうとしています。



まず、正方形をかきましょう。正方形は、4つの角が直角で、4つの辺の長さが等しい四角形ですね。

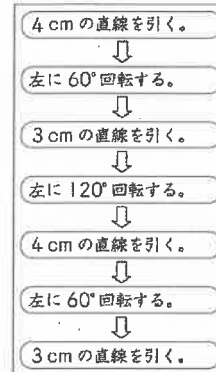
1辺が5cmの正方形をかくために、正方形のプログラムをつくりました。このプログラムを実行すると、右のように、スタート位置(●)から命令ごとに、○が>の方向に進みながら直線を引いたり、矢印(↻)の向きに回転したりして、正方形をかくことができます。

#### 正方形のプログラム



(4) 次に、ひろとさんは、下のプログラムをつくりました。

#### 【ひろとさんがつくったプログラム】



【ひろとさんがつくったプログラム】を実行すると、どのような図形をかくことができますか。

下の 1 から 5 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 二等辺三角形
- 2 長方形
- 3 平行四辺形
- 4 ひし形
- 5 正六角形

#### 【正答】

3と解答しているもの  
(正答率：全国 57.6% 埼玉県 60.1% 本校 75.7%)

#### 【分析】

示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できるかどうかをみる問題です。

図形を構成する要素やそれらの関係に着目し、作図の手順からどのような図形ができるかについて判断できるようにすることが大切です。そこで、示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断することを求めています。本設問では、平行四辺形の意味や性質を基に、示された作図の手順から、二組の向かい合う辺の長さがそれぞれ等しいことと、二組の向かい合う角の大きさがそれぞれ等しいことを捉える力が必要になります。

## ●正答率の低かった設問

### 【問題2の(4)】

(4) かいとさんは、果汁の割合と果汁の量がわかってるとき、飲み物の量を求めることができるかどうかを考えています。そこで、りんごの果汁の割合が30%で、果汁の量が180mLのときの飲み物の量を求めることにしました。



果汁が30%ということは、果汁が30mLのとき、飲み物の量は100mLですね。



そうですね。私は、果汁の量から飲み物の量を求めるために、表にまとめました。

果汁の量と飲み物の量

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量 (mL)	100	200	300	...	?

上の表を見て、かいとさんは、次のことに気づきました。



果汁の量が2倍、3倍になると、それにもなって飲み物の量も2倍、3倍になることがわかりました。

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量 (mL)	100	200	300	...	?

$\begin{matrix} & & \text{3倍} & & \\ & & \text{2倍} & & \\ & & \text{3倍} & & \\ & & \text{2倍} & & \\ & & \text{3倍} & & \end{matrix}$

ゆうかさんは、かいとさんが気づいたことをもとに、次のように考えました。



下の表のように、果汁の量が□倍になると、それにもなって飲み物の量も□倍になるのではないのでしょうか。このことを使えば、果汁の量が180mLのときの飲み物の量を求めることができますね。

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量 (mL)	100	200	300	...	?

$\begin{matrix} & & \text{□倍} & & \\ & & \text{□倍} & & \\ & & \text{□倍} & & \\ & & \text{□倍} & & \end{matrix}$

果汁の量が180mLのときの飲み物の量は、何mLになりますか。

180mLが30mLの何倍かをどのように求めたのかがわかるようにして、飲み物の量の求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

### 【改善策】

「変化と関係」の領域では、二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるようになることが大切です。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。

「変化と関係」の領域の授業では、伴って変わる二つの数量の間にある比例の関係を見だし、その比例の関係を用いて、未知の数量を求めることができるよう工夫していきます。

また、伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述していく場面を意図的に設けていきます。

### (正答の条件)

次の①、②の全てを書き、答えを600と書いている。

① 180mLが30mLの6倍であることを求める式や言葉

② 果汁の量が6倍になると飲み物の量も6倍になることを用いて、果汁の量が180mLのときの飲み物の量を求める式や言葉

### 【求め方】

果じゅうの量は、 $180 \div 30 = 6$ で、6倍になっています。果じゅうの量が6倍になると飲み物の量も6倍になるので、飲み物の量は、 $100 \times 6 = 600$ で、600mLになります。

【答え】 600 (mL)

(正答率：全国 48.0% 埼玉県 47.8%

本校 40.8%)

### 【分析】

本設問では、果汁が含まれている飲み物について、果汁の量が2倍、3倍になると、それに伴って、飲み物の量も2倍、3倍になるという比例の関係を用いて、果汁の量が180mLのときの飲み物の量を求めることが必要になります。その際、求め方を記述する上で、次の二つの事柄を書くことが必要になります。

- ・ 180mLが30mLの6倍であることを求めること
- ・ 果汁の量が6倍になると飲み物の量も6倍になることを用いて、果汁の量が180mLのときの飲み物の量を求めること

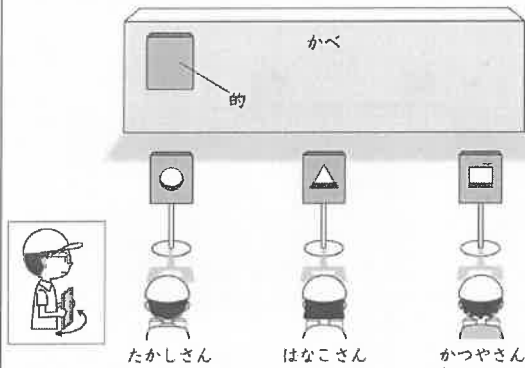
<理科>

「エネルギー」を柱とする領域」「粒子」を柱とする領域」に関して県平均及び全国平均を上回りました。「生命」を柱とする領域」に関して県平均を上回りました。しかし、「地球」を柱とする領域」では県平均及び全国平均をわずかに下回りました。

○正答率の高かった設問

【問題3の(2)】

たかしさんたちは、晴れた日に科学クラブで、同じ大きさの鏡を使い、日光をはね返して、的<sup>てき</sup>をあてゲームをしました。



上の図のように、3人とかべの間に、それぞれ、円形、三角形、四角形に切りぬいた、鏡と同じ大きさの段ボールの板を置きました。

日光が重なった部分

たかしさん: はね返した日光が2つ重なると、重なった部分が明るくなったね。

はなこさん: はね返した日光が2つ重なって明るくなった部分は、温度が高そうだね。

かつやさん: はね返した日光が3つ重なると、さらに温度が高くなると思うよ。

たかしさんたちは、切りぬいた段ボールの板をとり除き、次のような【問題】を実験の【方法】を決めて、調べることにしました。

【問題】  
鏡ではね返した日光を重ねるほど、<sup>てき</sup>的の温度は高くなるのか。

【予想】  
はね返した日光を重ねるほど、明るくなるので、<sup>てき</sup>的の温度も高くなると思う。

【方法】

①段ボールの板のすき間に温度計をさしこんだ<sup>てき</sup>的を、4つつくる。  
②かべに①の<sup>てき</sup>的をはり、日光をあてる前の<sup>てき</sup>的の温度をはかる。  
③鏡ではね返した日光を<sup>てき</sup>的にあて、3分後の<sup>てき</sup>的の温度をはかる。

(2) 実験をしながら、【結果】を記録しました。【問題】を解決するために最も適切な記録はどれですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1

【結果】 (はじめの<sup>てき</sup>的の温度 23℃)

- 鏡3枚のときが、どれよりも明るく、<sup>てき</sup>的の温度が高かった。
- 日光を重ねると、温度がとてもし上がったので、日光ってすごいと思った。

2

【結果】 (はじめの<sup>てき</sup>的の温度 23℃)

鏡の枚数	3分後の <sup>てき</sup> 的の温度
0枚	23℃
1枚	32℃
2枚	40℃
3枚	51℃

3

【結果】 (はじめの<sup>てき</sup>的の温度 23℃)

鏡3枚

時間	<sup>てき</sup> 的の温度
1分後	35℃
2分後	46℃
3分後	51℃

4

【結果】 (はじめの<sup>てき</sup>的の温度 23℃)

鏡0枚  
日光があたっていないので暗い

鏡1枚  
明るい

鏡2枚  
1枚のときよりも明るい

鏡3枚  
この中で最も明るい

【正答】

2と解答しているもの  
(正答率：全国 74.4% 埼玉県 76.8%  
本校 85.4%)

【分析】

本設問は、実験の【結果】の記録を対象として、【問題】の解決に必要な情報が取り出された適切な記録について問うものです。ここでは、【問題】に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた【結果】を適切に記録することが求められています。本設問にあるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録するには、問題を的確に把握し、何を記録する必要があるかについて判断することが大切になってきます。

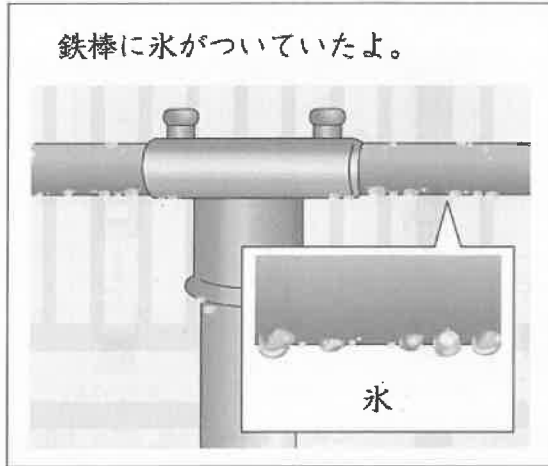
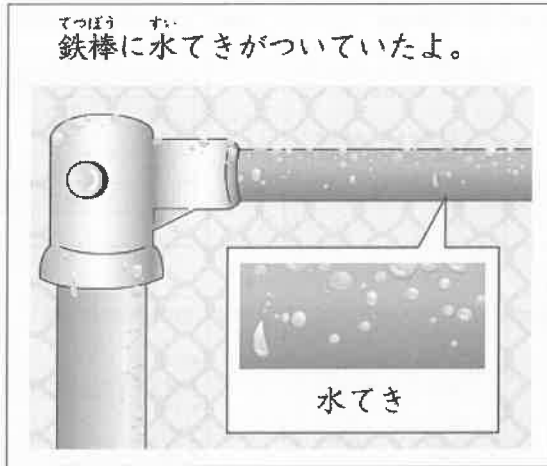
そのため、本設問の正答率からは、問題を解決するために必要な記録の内容を検

討する場面や、問題を解決するための記録ができているかを確認する場面を設定することの重要性について意識して教員が授業をしていることがわかります。

●正答率の低かった設問

【問題4の(4)】

(4) よしこさんは、インターネットを使って、各地の友達から朝のようすの写真を送ってもらいましたが、その中で2枚の写真が気になりました。



よしこさんは、2つの現象を調べて、次のようにまとめました。

にあてはまることばを書きましょう。

朝、鉄棒に、水てきや氷がついていた。気温が下がり、空気中の  が冷やされて、水てきや、水てきになったあと氷になる現象が見られた。左の写真は「つゆ」、右の写真は「とうろ」というらしい。気温のちがいで、異なる現象が起こることがわかった。

【正答】

水蒸気、水が蒸発したもの、水が気体になったものと解答しているもの  
(正答率：全国 62.0% 埼玉 61.2% 本校 57.3%)

【分析と改善策】

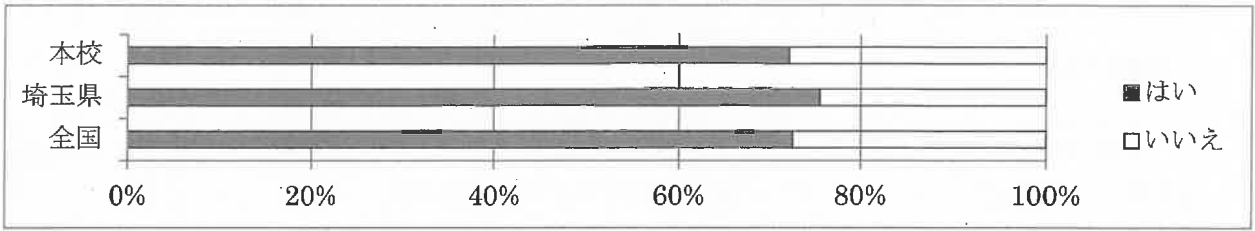
本設問は、鉄棒に付着していた水滴と氷の粒の異なる二つの現象を対象として、鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものなのかについて問われています。ここでは、水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解していることが求められます。

本設問にあるように、生きて働く知識を習得するためには、主体的な問題解決を通して知識を習得することや、知識を概念的に理解することが大切です。そのため、習得した知識を、次の学習や生活などに生かすことができるようにすることや、科学的な言葉や概念を理解して説明できるようにすることの重要性について意識して授業を改善していきます。

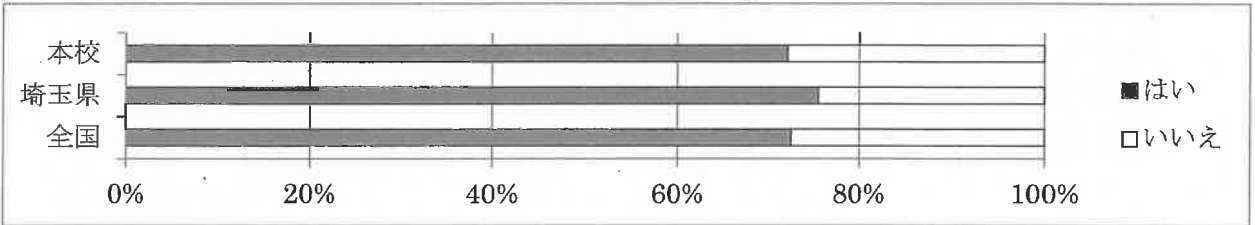


<質問紙調査から>

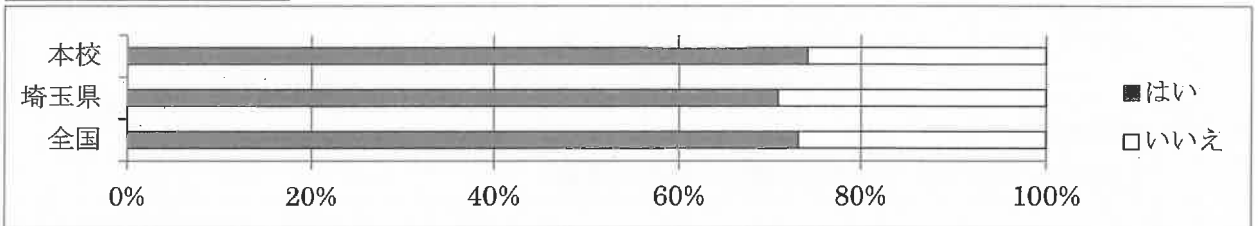
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。



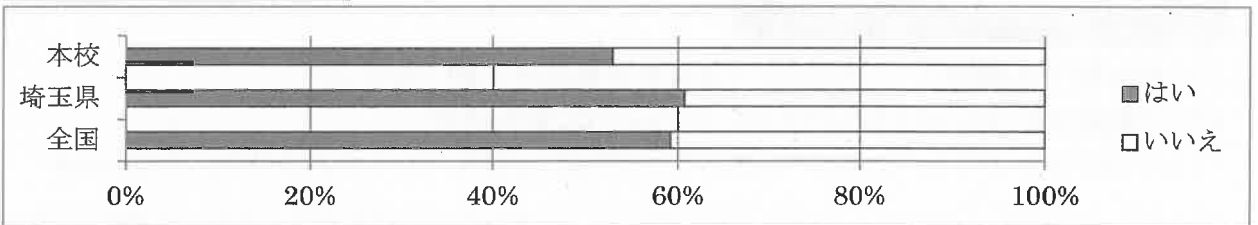
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



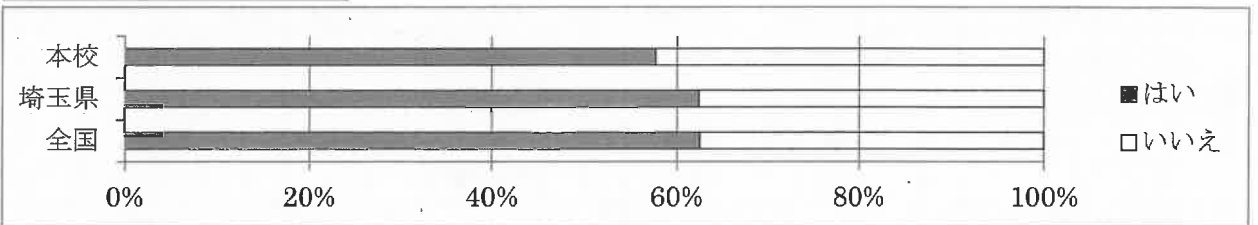
読書は好きですか。



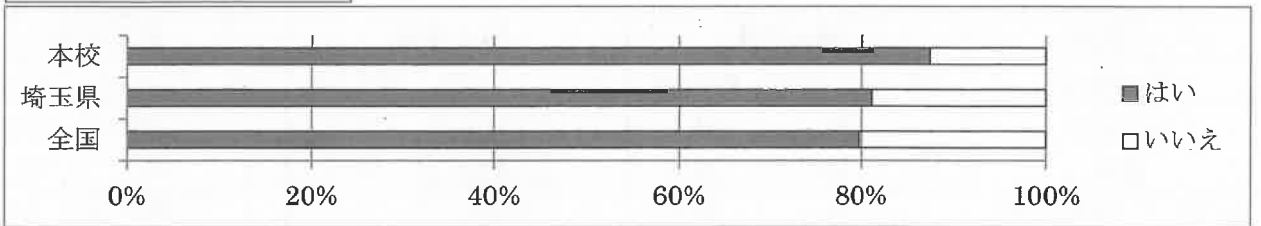
国語の勉強は好きですか



算数の勉強は好きですか



理科の勉強は好きですか



【分析と考察】

6年生の特徴として、読書好きな児童が多いことがうかがえます。しかし、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」の回答では、県平均及び全国平均を若干下回っていることから、自分の好みに合った本を読んでいる児童が多い傾向にあることが分かります。また、「国語、算数の勉強が好き」と答えた児童は県平均及び全国平均を若干下回っていますが、「理科の勉強が好き」と答えた児童は県平均及び全国平均を上回っています。

## <埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和4年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

### 1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

### 2 調査対象

小学校第4・5・6学年 原則として全児童

### 3 調査実施日

令和4年5月11日（水）

### 4 調査の内容

#### （1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

#### （2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

## 本校の調査結果の概況

<教科に関する調査>   は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	14	73.3	70.2	15	71.5	64.3	15	68.3	66.8
情報の扱い方、我が国の言語文化	3	60.0	59.0	2	68.9	59.1	2	70.2	63.6
話すこと・聞くこと・書くこと	5	41.7	40.5	5	44.7	49.5	5	66.5	65.3
読むこと	4	60.7	63.1	8	48.9	44.5	8	61.8	57.4
※学力の伸びた児童の割合					↑↑	↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	13	63.1	64.0	13	65.4	62.2	13	64.9	64.2
図形	6	49.7	51.4	8	62.7	56.7	8	54.1	56.7
4年測定 5、6年変化と関係	6	56.5	61.8	5	76.1	74.1	5	65.4	65.0
データの活用	5	70.6	75.7	6	62.5	64.0	6	51.4	50.3
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑	↑↑↑		↑↑	↑↑↑

<児童への質問紙調査> (主な結果:「規律ある態度」に関する項目の結果)

※ 達成率:「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段: 県の達成率、下段: 本校の達成率、 は80%以上 (%)

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	89.1	91.9	93.8
		82.6	91.3	97.1
	② 授業の開始時刻	87.8	90.9	94.2
		77.4	89.3	91.3
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	79.6	82.1	85.5
		76.5	81.6	79.8
○礼儀正しく人と接することができる	④ 整理整頓	76.2	76.7	79.9
		73.9	74.8	76.0
	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	75.8	75.6	77.7
		72.2	71.8	78.8
	⑥ 返事	85.5	85.6	86.1
		89.6	89.3	86.5
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
⑦ ていねいな言葉づかい	82.3	85.1	87.7	
	80.0	91.3	84.6	
	81.8	83.2	83.5	
	79.1	92.2	76.9	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	82.3	84.6	87.2
		75.7	89.3	83.7
	⑩ 話を聞き発表する	75.1	74.5	74.9
		72.2	91.3	74.0
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	81.4	81.9	83.2
		73.9	89.3	79.8
⑫ 掃除・美化活動	89.2	87.6	86.5	
	90.4	93.2	82.7	

## 本校の学力向上の取組

### 授業における取組

#### ☆■個に応じた指導を充実させます

学力学習状況調査の結果から、今まで行ってきた個に応じた指導によって、各学力層の学力の伸びを保証できたことがわかりました。

- (1) 全学年ティーム・ティーチング（二人以上で指導する方法）・3年生以上では、少人数指導（1クラスの人数を少なくして指導する方法）を主に算数科の指導において積極的に活用し、きめ細やかな指導をします。
- (2) 高学年の算数科では、新しい単元に入る前にレディネステストを行い、児童の既習事項の理解度を確認してから指導します。
- (3) 全ての子供に、既習事項と関連させた課題解決に向けた自分のなりの考え（見通し）をもたせられるように、指導していきます。
- (4) 授業の終わりに「振り返り」の時間を必ずとり、自分の考えの変容や成長を確認したり、新たな問いや疑問をもったりすることができるようにします。

### 授業以外での取組

#### ☆家庭学習の取組を継続して行います（家庭学習プラン）

全国及び埼玉県学力学習状況調査の質問紙調査の結果より、本校の児童は家庭学習の習慣が身に着いていることがわかりました。昨年度まで行ってきた家庭学習の取組を今年度も継続していきます。

- (1) 保護者の方々にご協力いただき、児童の家庭学習の機会を作り出し、家庭における学習習慣を身に付けさせます。
- (2) 家庭学習の目安と取り組み方を提示し、宿題＋自主学習に取り組みます。
- (3) 学校と保護者とがサインやコメントで連絡を取り合いながら行う家庭学習（家庭学習キャンペーン）を学期に1回ずつ1週間行う取組を推進します。  
(2～6年生…年に3回、1年…2学期より年に2回)

#### ■児童の基礎・基本の力を伸ばすため、業前の時間を活用し継続して取り組みます

- (1) 全国及び埼玉県学力学習状況調査の復習のプリントを行い、国語と算数の基礎を培います。(学習タイム)
- (2) 4分間走（5月～12月）・短縄跳び4分間（1月～3月）の後、3分間のクラスごとの長縄に年間を通して継続して取り組むことで、運動の楽しさを味わわせるとともに、体力の向上を図ります。(体カタイム)
- (3) 語彙を増やすために「寺子屋学習」プリントに取り組んだり、国語の力をつけるためのプリントに取り組んだりすることで、伝えるための基礎となる国語力の向上を図ります。(国語タイム)

#### ☆…成果を上げたと考えられる取組

#### ■…課題を解決するための取組

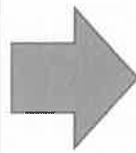
**国語科指導改善プラン**

【学力向上プランにおける改善状況を把握する指標】

- 全国・埼玉県学力学習状況調査
  - ・記述式の問題形式の解答率を5%向上させる。
  - ・相手の顔を見て、はっきりあいさつをすることができますかの質問に「できる」と答えられる児童を75%にする。
- 埼玉県学力学習状況調査
  - ・国語・算数の学力を伸ばした児童の割合を各学年2段階向上させる。

**現状課題**

- 4年
- ・「話すこと・聞くこと、書くこと」の正答率が低い。
  - ・記述式の問題の正答率が低い。
  - ・自分の考えが伝わりやすいように工夫したり、理由を考えたりして書くことに慣れていない。
- 5・6年
- ・知識を問われる問題に対して回答できない傾向がある。
  - ・問題文の意図を正確に読み取って答えることが不十分な児童がいる。



**期待される児童の姿**

- 4年
- ・国語の授業で自分の考えやその理由を文章にまとめることができる。
  - ・自分の考えが伝わりやすいように工夫して、朝のスピーチで話すことができる。
- 5・6年
- ・漢字の学習で、漢字や熟語の意味も同時に覚えることができる。
  - ・主語と述語の関係・修飾語の関係などを判断できる[知識・技能]が身に付いている。
  - ・問題文を最後まで読み、問題の意図を読み取るようとしている。

**学習指導における取組**

- 朝の会等** ・自分の考えが伝わりやすいように工夫して、朝のスピーチで話すように意識させる。スピーチを行ったら伝わりやすかったかどうかを児童や教師がアドバイスする。
- 授業中** ・自分の考えやその理由を文章にまとめる活動を意識して取り入れる。
  - ・主語と述語の関係・修飾語の関係など「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、他教科や日常生活、社会生活等で生かせるような具体的な場面をイメージさせ、思考し、判断し、表現させることを通して定着させる。
  - ・漢字学習では、テストに出てくる熟語だけでなく、他の熟語とその意味にも同時にふれさせる。
  - ・ワークシートやテストを行うときは、問題文を最後まで読み、問題の意図を読み取るように指導する。
- 振り返り** ・授業の終末で振り返りを必ず文章で記述させる。振り返りを蓄積することで、子供自身が考えの変容を確認したり、新たな問いや疑問を持ったりすることができるようにする。

**国語科授業1時間プラン**

学習規律:始業のあいさつ 学習用具の準備

導 入	・漢字等の継続学習 ・前時の振り返り	7分	・漢字の学習においては、漢字の意味にも触れる。
展 開	・学習内容を知る ・学習活動に取り組む	30分 ～	・本時の課題を明確にし、見通しをもたせる。 ・教材文の音読
	学び合い 対話的な活動を行う	33分	・理由を明確にして、自分の考えを文章にまとめる活動 ・ねらいに即して子供の発言を切り返したり問い直したりする。
終 末	・まとめをする	5分	・自分の考えの変容を記録する
	・振り返りをする	～8分	・新たな問いや疑問を持つ

学習規律:終業のあいさつ 学習用具の整理 次時の準備

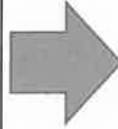
## 算数科指導改善プラン

【学力向上プランにおける改善状況を把握する指標】

- 全国・埼玉県学力学習状況調査
  - ・記述式の問題形式の解答率を5%向上させる。
  - ・相手の顔を見て、はっきりあいさつをすることができますかの質問に「できる」と答えられる児童を75%にする。
- 埼玉県学力学習状況調査
  - ・国語・算数の学力を伸ばした児童の割合を各学年2段階向上させる。

### 現状課題

- 4・5・6年
- ・記述式の問題の正答率が低い。
  - ・問題で示された条件に合わせて理由や解き方等を記述することに慣れていない。内容に不足があることが多い。
  - ・式や演算がどのような場面を表しているか判断できていない。
- 5年
- ・測定の領域が苦手であり、公式と結び付けられていない。
- 6年
- ・目的に応じたデータの読み取りに課題がある。



### 期待される児童の姿

- ・算数の基礎・基本を身に付けている。
- ・既習事項と課題を結び付けて解き方を考えている。
- ・算数の自力解決のときに、自分なりに理由や解き方等を記述できている。
- ・式と言葉を結び付けられている。
- ・目的に応じてデータを読み取る。

### 学習指導における取組

- 授業中** ・全校でノートの書き方、板書の書き方について統一して指導していく。
- 問題を黒・課題を青・まとめを赤で四角く囲む。
- ＝は、横につなげずに縦にそろえて書く。
- ・必ず既習事項と関連させて、課題解決に向けた見通しを持たせる。全ての子供が自分なりの考えを持てるように支援する。
  - ・毎時間必ず、自力解決の時間を設定する。問題場面を図式・表等の数学的な表現で表せるようにする。
  - ・子供の発言を切り返したり、子供の発言をつなぐことを意識して授業を行う。
  - ・子供たちがそれぞれの考えの共通点や相違点を見付けたり、問題の条件を変えて考えてみたりするなど、思考を深める場面を意図的に作り出す。
  - ・ワークシートやテストを行うときは、問題文を最後まで読み、問題の意図や条件を読み取るように指導する。
- 振り返り** ・授業の終末で必ず振り返りの時間をとる。振り返りにおいて、自分の考えた結果や過程を振り返らせ、子供自身が考えの変容を確認したり、新たな問いや疑問を持ったりすることができるようにする。

### 算数科授業1時間プラン

学習規律: 始業のあいさつ 学習用具の準備			
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題をつかむ</li> <li>・見通しをもつ</li> </ul>	7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面絵を活用する。</li> <li>・問題は黒線で囲ませる。 ・既習事項を生かす。</li> </ul>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を確認する</li> <li>・自力解決をする。</li> </ul>	3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題は青線で囲ませる。</li> </ul>
	学び合い	15分～ 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートに自分の考えや解き方を友達にわかるように文や図を使って書かせる。</li> <li>・既習事項を生かす。 ・ヒントカードを活用する。</li> </ul>
終 末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練り上げをする。</li> </ul>	5分～ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいに即して子供の発言を切り返したり問い直したりする。</li> <li>・発表の仕方を指導する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめをする。</li> <li>・練習問題を解く。</li> <li>・振り返りをする。</li> </ul>	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめは赤で囲ませる。</li> <li>・習熟させる。</li> <li>・自分の考えの変容を記録したり新たな問いや疑問を持たせたりする。</li> </ul>
学習規律: 終業のあいさつ 学習用具の整理 次時の準備			

## 話を聞き自分の考えを伝える意識を育てるための指導改善プラン

【学力向上プランにおける改善状況を把握する指標】

- 全国・埼玉県学力学習状況調査
  - ・記述式の問題形式の解答率を5%向上させる。
  - ・相手の顔を見て、はっきりあいさつをすることができますかの質問に「できる」と答えられる児童を75%にする。
- 埼玉県学力学習状況調査
  - ・国語・算数の学力を伸ばした児童の割合を各学年2段階向上させる。

### 現状課題

埼玉県学力学習状況調査質問紙結果より(5年生)

(28)自分からはっきりあいさつすることができますか

R3 肯定的評価 65%(県平均 -13.5% 市平均 -9.1%)

R4 肯定的評価 71.8%(県平均 -3.8% 市平均 -0.9%)

依然として県平均を下回っているが、昨年度よりも6.8%の増加があり、あいさつの意識が向上されていることが分かる。

### 期待される児童の姿

- ・挑戦する気持ちをもっている。
- ・自分からあいさつをできる児童。
- ・自分の気持ちや考えを伝えることができる。
- ・目を見てコミュニケーションをとることができる。
- ・「勉強することが楽しい」「勉強することが好きだから」と答えられる児童。

### 学級における取組

「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦することができる児童」を育てるために、共通理解をもって指導していくこと

【授業中】・先生の話や友だちの発表をしっかりと聞く力、自分の考えを伝える力を育てることを意識する。

- ・自分の考えを、理由をつけて発表する力・書く力を、各教科等を通して育成する。
- ・問題を解くときに、それまでに習ったことを思い出して解決する機会を設定する。

【基本的生活習慣】・学校の授業の復習や予習を、自学等を行うこととする習慣を身に付けさせる。※「宿題をする」ことではない。

- ・相手の顔を見て、自分からはっきり挨拶をすることを習慣づける。

【考え方】・なぜ勉強するのかと問われたときに、「勉強することが楽しい。」または「勉強することが好きだから。」と答えられる児童を育てる。

「勉強することが楽しい」「勉強することが好きだから」と答えられる児童を育てるため、共通理解をもって指導していくこと

- ・学習の準備を整え、授業に臨ませる。 ・学校の授業の予習や復習をする習慣を身に付けさせる。
- ・先生の話や友だちの発表をしっかりと聞き自分の考えを伝えることができる力を育てる。
- ・自分の考えを、理由をつけて発表したり書いたりすることができる力を育てる。
- ・進んで掃除をし、学校をきれいにすることができる習慣をつける。
- ・人の集まる場所では静かにし、姿勢を正すことが当たり前だと考えられるようにする。
- ・将来の進学や自分の望む職業に就くために勉強しているという意識をもたせる。

### 人権感覚育成プログラムの活用

- ・「自分を価値ある存在」として肯定的に認め、受け入れることができるようにするため、1年に1回「自己尊重の感情」を育てる人権感覚育成プログラムを取り入れ、年間指導計画に明記する。
- ・該当するプログラムの無い学年は、「共感と連帯感」「礼儀」を育てる人権感覚育成プログラムを取り入れる。

### キャリア・パスポートの活用

- ・進級直後、各学期末、学年末、運動会・学習発表会・林間学校・修学旅行、中学校進級の時にキャリア・パスポートを記入させる。この活動を通し、授業・行事・部活動等で心に残っていることや自分が成長できたことなどをまとめ、将来の目標とそれに向けた具体策を記入させ、自身の変容や成長を自己評価できる機会を設ける。その中で、将来の進学や自らの望む職業に就くために勉強しているという意識を醸成させる。
- ・キャリア・パスポートは、小学校入学から高校卒業までの記録を学年、校種を超えて引き継ぎ、学びの振り返りや見通しに生かすもののため、管理を学校で行い、引き継ぎは教師間で行う。また、各シートはA4版(両面印刷可)とする。

## 保護者・地域の皆様へ

日頃から桶川小学校の教育活動に、ご協力、ご支援いただきありがとうございます。本校の児童は、全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査ともに全国平均、県平均の値を上回っている学年とそうでない学年があります。平均値を下回っている学年も領域ごとに見ていくと平均値を上回っており、本校児童が日々の授業へ真剣に取り組んでいる様子が伺えます。学力向上は学校だけでなく、家庭・地域の連携のもと学んだことを確認したり、生かしたりする場が確保されることで実現します。そのため、学校から発信する各種のお手紙や課題として取り組んだものに目を通していただき、学習内容をお子さんと確認していただけると助かります。これからも本校の教育活動にご理解いただき、ご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

### ☆家庭生活において

#### ① 規則正しい生活習慣を身に付けさせましょう。

- ・早ね、早起き、朝ごはん
- ・時間の使い方（ゲーム・テレビ等）を家庭でのルールとして決めてください。

#### ② 家庭学習に取り組ませましょう。

- ・1年生…20分 2年生…30分 3年生…40分 4年生…50分
- 5・6年生…60分

#### ③ 持ち物を準備させましょう。（忘れ物をなくしましょう。）

- ・授業に必要なものをしっかり用意することが学習の一步です。忘れ物をなくすために 家庭で声かけをよろしくお願いいたします。